トドマツをはじめて間伐する場合選木方法について

問　私の所有するトドマツ人工林が 25 年生となり，完全にうっ閉しましたので，間伐を実行したいのですが，間伐木をどのように選んだらよろしいでしょうか。なお，現在の立木本数は ha 当り約 2，000 本です。　（旭川市　K生）

答　トドマツ人工林材は本州のスギやヒノキほど生産目標がはっきりしているとはいえませんが，その材質からみて，木造住宅などの構造材として利用されるケースが多いとみこまれます。したがって，主伐期までに数回の間伐を行い，太くて，曲りなどの欠点の少ない良質材を育てることが有利です。

25 年生で 2，000 本あれば，かなり混み合っていると予想されますから，できるだけ早く間伐を行うのがよいでしょう。この場合，林冠を大きく疎開させますと，林内に風が入りやすくなり風倒などの危険が生じますし，また林分全体の生産力も低下します。林分生長量を落とさないで，しかも，個々の木をできるだけ太らせることが，間伐の目的であると言えましょう。ふつう，40%以下の間伐率ならば，林分生長量は低下しないと考えられています。この場合ですと，約 25%，500 本くらいの木を間伐するのが適当でしょう。

残す木を太らせるためには，その木の生長のさまたげになっている木を伐ってやらなければなりません。上層に達した太い木であっても，残す木のさまたげになっている場合は伐る必要があります。細い木，被圧木だけを伐るような下層間伐では，残した木を太らせるのにあまり役には立ちません。

では実際の選木にはいりましょう。選木の要件は，良い木を残し悪い木を伐ることです。良い木は，太くて，まっすぐで，枝下高の高い木。悪い木は曲がり，二股，傷のある木などです。中間的な木，たとえばまっすぐだが細い木，あるいは多少の曲がりのある木などは，将来，良くなる可能性もありますから，今のところは残しておきましょう。

第１回の間伐ですから，まず悪い木を伐ってしまうことに主眼をおきます。この場合，被圧された木だけでなく，樹勢の良い太い木であっても，欠点があり，かつ良い木の生長をさまたげている場合には伐ってやりましょう。このようにして悪い木を選ぶだけで，25%くらいの間伐率になるものと推測できます。

第２回の間伐は，林冠がふたたび閉鎖する頃に行います。5～10 年後になるでしょう。第２回の間伐も，基本的には第１回と同じでよいのですが，今度は良い木を残すことに主眼をおきます。主伐まで残す木（立て木）を，形質と樹冠配置をにらみあわせて決定し，立て木の生育をさまたげる木を伐ります。立て木の周囲にあっても，樹高の低い木は立て木をまもる木（副木）として残します。　（造林科　菊沢喜八朗）